
土地分類基本調査

都 留

5 万分の 1

国 土 調 査

山 梨 県

1 9 8 7

序 文

本県では、国土調査法に基づき、昭和55年度から土地分類基本調査を実施しております。

これは、限りある県土の実態を科学的に調査し、県土の保全と併せ、効率的な利活用を図ることを目的とするものであります。その成果は、土地の基本的性格である地形、表層地質、土壤、傾斜区分、水系・谷密度、土地利用現況の6図および説明書によって構成されております。

今回調査の都留地域は、国土地理院発行5万分の1地形図「都留」を対象としておりますが、この地域には、県東部の主要都市である大月市、都留市、富士吉田市が含まれます。

なお、今回の調査では、地形、表層地質、土壤の3つの図面について、コンピューター・マッピング方式によるデータの入力および着色を実施しました。これは、高度情報化社会に対応するものであり、これによって本調査の成果がさらに多くの人々に利活用されることを希望しております。

終りに、本調査の実施に際し、御指導、御協力をいただいた関係各位に深く感謝の意を表します。

昭和62年3月

山梨県農務部長

土 田 清 藏

目 次

序 文

ま え が き

総 論

- I 位置、行政区画および面積…………… 1
- II 人口および世帯数…………… 3
- III 地域の特性…………… 5
- IV 主要産業の概要……………10

各 論

- I 地形分類図……………15
- II 表層地質図……………24
- III 土 壤 図……………28
- IV 傾斜区分図……………32
- V 水系・谷密度図……………33
- VI 土地利用現況図……………34

資 料

- コンピューター・マッピングについて……………35
- 土地分類基本調査における面積測定……………36
について

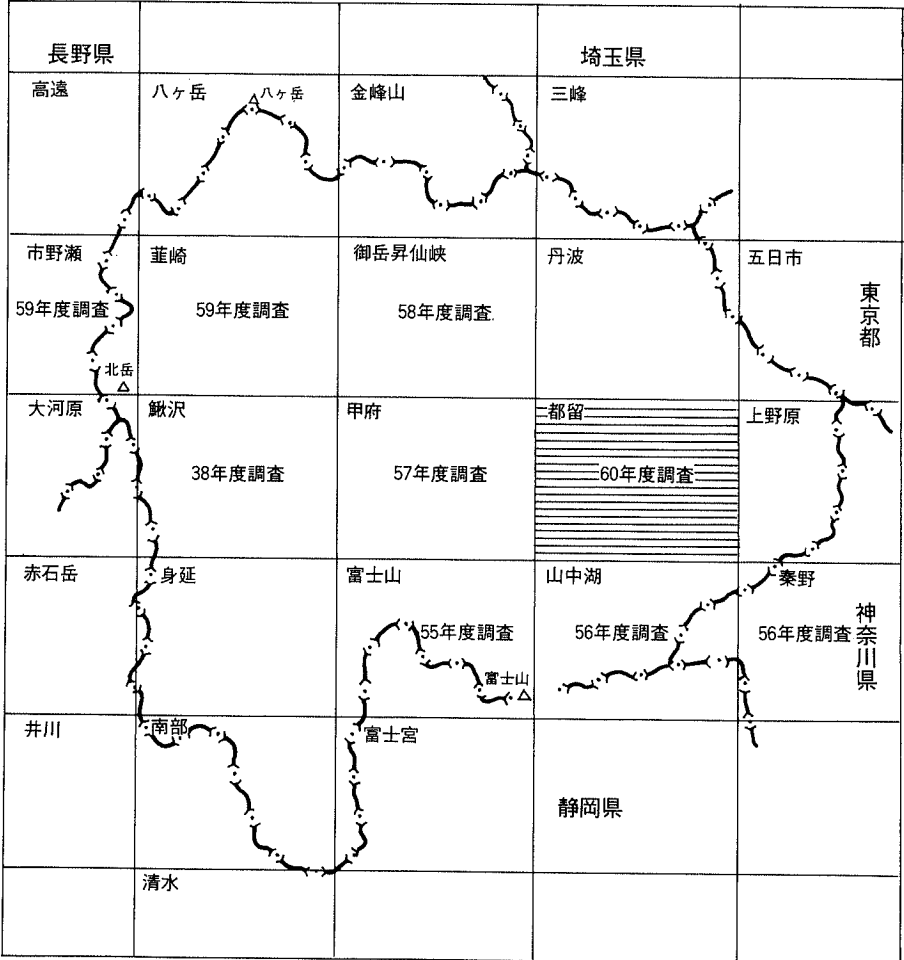
ま え が き

1. 本調査は、国土調査法（昭和26年法律第180号）第5条第4項の規定により、国土調査の指定を受け、国土庁土地局国土調査課の指導を受けて、山梨県が事業主体になり実施したものである。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 調査項目、成果の作成機関および担当者は、下記のとおりである。

調 査 項 目	作 成 機 関	担 当 者
地形分類調査 標高・傾斜区分調査 水系・谷密度調査	山梨大学教育学部 "	教 授 吉村 稔 助 授 平川 一臣
表層地質調査	山梨学院大学 大月短期大学 山梨大学教育学部 宝石美術専門学校 山梨学院大学	教 授 浜野 一彦 " 田中 収 助 授 角田 謙朗 " 服部 清二 講 師 河西 秀夫
土 壤 調 査	山梨県総合農業試験場 " " 山梨県林業技術センター " " "	場 長 中山 茂則 主任研究員 日向 進 研 究 員 秋山 康三 所 長 東條 正吾 副 所 長 遠藤 昭 研 究 員 馬場 勝馬 " 清藤 城宏
土地利用現況調査	山梨県農務部農村整備課 (60年度)	副 主 査 広瀬 直也 主 事 秋元 達也
総 括	山梨県農務部農村整備課	課 長 渡辺 三男 主 査 有泉 大 副 主 査 近藤 弘 主 事 手塚 昭夫

総論

第1図 位置 図



I 位置，行政区画および面積

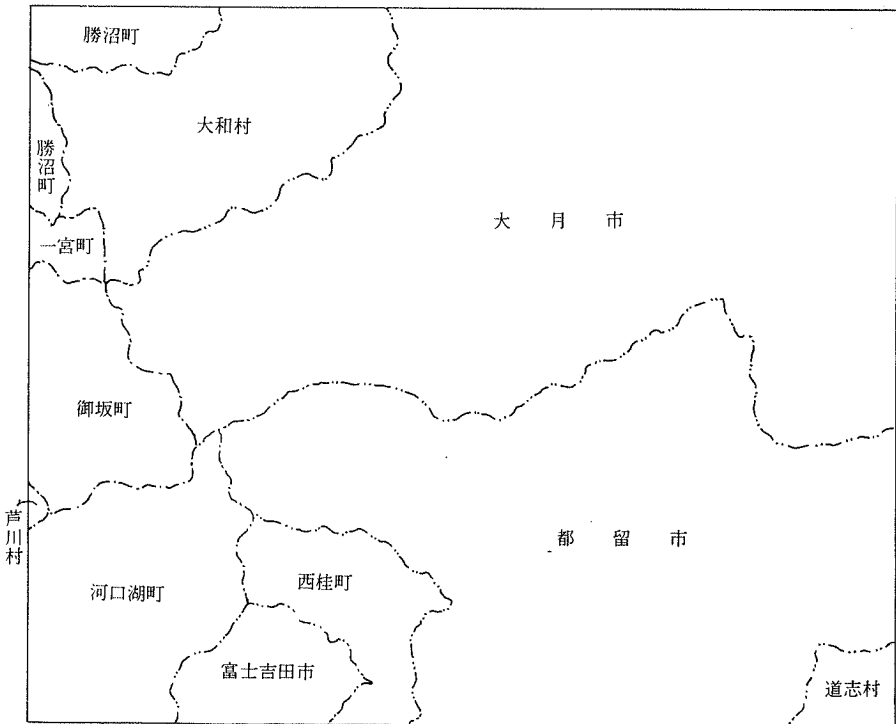
1. 位置

「都留」図幅は、山梨県東部に位置し、経緯度は、東経 $138^{\circ}45'$ ～ $139^{\circ}00'$ ，北緯 $35^{\circ}30'$ ～ $35^{\circ}40'$ の範囲にある。

2. 行政区画

「都留」図幅の行政区画は、第2図のとおりで、大月市，都留市，富士吉田市，河口湖町，西桂町，御坂町，一宮町，勝沼町，大和村，芦川村，道志村の3市5町3村からなっている。

第2図 行政区画



3. 面積

本調査対象区域内の市町村の行政区画面積および図幅内面積は、第1表のとおりである。

第1表 面積

市町村	図幅内面積		市町村面積		占有率 A/B(%)
	面積(km ²)A	構成(%)	面積(km ²)B	構成(%)	
大月市	165.29	39.4	280.61	30.3	58.9
都留市	124.74	29.7	161.97	17.5	77.0
富士吉田市	11.57	2.8	120.08	13.0	9.6
河口湖町	29.79	7.1	63.27	6.8	47.1
西桂町	15.09	3.6	15.38	1.6	98.1
御坂町	17.40	4.1	58.47	6.3	29.8
一宮町	2.60	0.6	29.73	3.2	8.7
勝沼町	9.63	2.3	36.77	4.0	26.2
大和村	38.29	9.1	43.66	4.7	87.7
芦川村	0.16	0.1	36.96	4.0	0.4
道志村	4.84	1.2	79.35	8.6	6.1
計	419.40	100.0	926.25	100.0	45.3

資料：建設省国土地理院「昭和60年全国都道府県市区町村別面積調」による。（富士吉田市については昭和55年度調査「富士山」地域の数字を踏襲する。）

ただし、図幅内面積は、コンピューターマッピングによる面積測定の結果に基づいた数値である。

II 人口および世帯数

1. 人 口

この地域は、都留市、大月市、富士吉田市を中心とした桂川沿いの比較的人口の集中する地域と、大和村、芦川村、道志村といった山間いの人口流出地域、およびその中間的存在の勝沼町、一宮町、御坂町といった本図幅の北西部に位置する地域からなっている。

しかし、ここ5年間で都留市の人口の伸び率は鈍くなってきており、大月市では、人口が減少している。それとは反対に、観光業や精密工業、繊維工業などの活発化により、河口湖町、富士吉田市を中心とした本図幅南西部の人口が増加してきている。

2. 世 帯 数

桂川沿いの人口集中地域では、世帯数は、増加傾向にある。

山間いの人口流出地域で、人口の減少の割合に比べて世帯数がさほど減少していないのは、既存世帯からの分離によるところが大きい。

なお、一世帯当たりの人員は、3.6人で、県平均の3.4人を上回っている。

第2表 人口及び世帯数

市町村	昭和55年				昭和60年				増			減		人口 伸び率 B/A	
	人口(男)	人口(女)	計(A)	世帯数	人口(男)	人口(女)	計(B)	世帯数	人口(男)	人口(女)	計	世帯数			
大月市	17,069	18,335	35,404	9,346	16,897	18,017	34,914	9,672	-172	-318	-490	326	0.99		
都留市	15,954	16,947	32,901	10,034	16,113	17,045	33,158	10,466	159	98	257	432	1.01		
富士吉田市	26,082	27,487	53,569	13,551	26,859	27,937	54,796	14,509	777	450	1,227	958	1.02		
河口湖町	6,791	7,396	14,187	3,681	7,357	7,829	15,186	4,058	566	433	999	377	1.07		
西桂町	1,958	2,044	4,002	952	1,961	2,096	4,057	1,001	3	52	55	49	1.01		
御坂町	5,136	5,646	10,782	2,694	5,224	5,714	10,938	2,796	88	68	156	102	1.01		
一宮町	4,845	5,120	9,965	2,529	4,778	5,193	9,971	2,448	-67	73	6	-81	1.00		
勝沼町	4,131	4,501	8,632	2,104	4,250	4,522	8,772	2,183	119	21	140	79	1.02		
大和村	980	972	1,952	501	940	914	1,854	495	-40	-58	-98	-6	0.95		
芦川村	449	485	934	298	389	454	843	281	-60	-31	-91	-17	0.90		
道志村	1,115	1,116	2,231	531	1,067	1,074	2,141	535	-48	-42	-90	4	0.96		
計	84,510	90,049	174,559	46,221	85,835	90,795	176,630	48,444	1,325	746	2,071	2,223	1.01		

資料：昭和55年国勢調査
昭和60年国勢調査

III 地 域 の 特 性

本地域は、山梨県の東部に位置し、本図幅内の南西部から山中湖を源流とする桂川が北東部へと流れ、相模湾に注いでいる。この川の周辺は、いわゆる郡内盆地と呼ばれる低地で、都留市、大月市といった県東部の文化および行政の中心地域を形成している。

この低地の周囲には、1,000m～1,500m級の山地が広がり、ここは、スギ、ヒノキなどの木材資源の供給地となっている他、山の保安という点でも重要である。

図幅の南西には、河口湖の東部があり、その周囲の河口湖町や富士吉田市は、観光産業の発達や企業の進出などにより、近年目覚ましい発展をとげている。

1. 気 象

本県は、周囲を高い山岳に囲まれ、域内には、山あり、谷あり、盆地ありという複雑な地形であり、内陸的気候の代表的なものと言える。すなわち、冬は寒さが厳しく、反対に夏は非常に暑く、気温の較差は大きい。また、空気は乾燥し、降雨量は少なく、比較的晴天の日が多い。

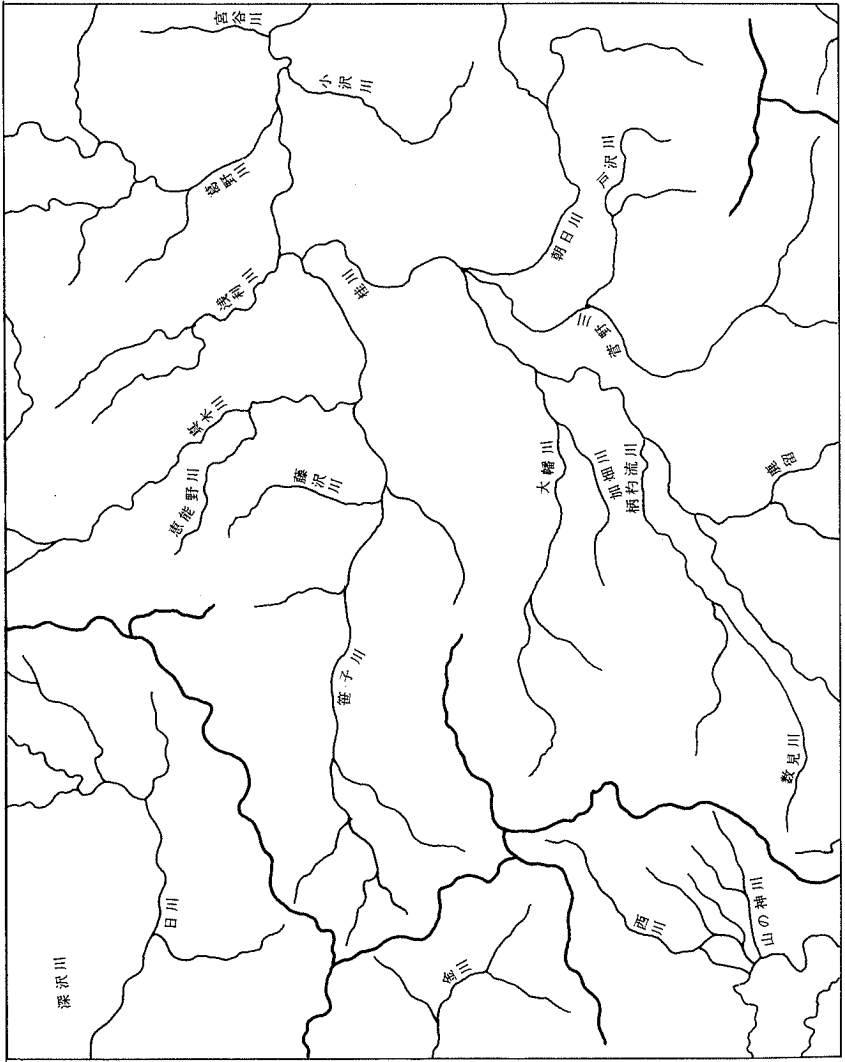
本図幅の南西部は、気温も低く、降水量が多いが、桂川に沿って大月へ登っていくに従って、平雨高温型の気候へと変わっていく。

第3表 甲府気候表(1931～1960年)

要素	単位	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	全年
気圧(現地の値)	mb	982.4	983.1	982.3	981.9	979.9	977.2	977.2	978.5	981.0	984.8	986.4	984.7	981.6
平均気温	℃	1.5	2.7	6.8	12.2	19.6	21.0	25.2	25.6	21.7	15.2	9.5	3.9	13.5
最高気温(平均)	℃	8.6	9.7	14.0	19.5	24.0	27.1	30.9	31.8	27.5	21.7	16.5	11.1	20.2
最低気温(平均)	℃	-4.3	-3.2	0.6	5.9	10.8	16.4	21.4	21.6	17.7	10.4	3.9	-1.8	8.3
平均降水量	mm	37.9	48.9	71.9	85.2	89.9	139.6	142.7	155.9	188.1	136.6	67.3	43.2	1,207.3
平均風速	m/s	2.9	2.8	3.4	3.0	2.4	2.2	2.1	1.8	1.8	1.7	1.8	2.4	2.4

(甲府地方気象台)

第3図 主な尾根と河川図



2. 就業構造

本地域においても、農業を主体とする第1次産業に従事する就業者の割合は少なく、また、年々減少していく傾向にある。特に、桂川沿いの3市および河口湖町でその傾向が顕著である。

第2次、第3次産業は、逆に増加しており、特に第3次産業の増加が著しい。これは、観光業などのサービス業の増加によるところが大きい。

第4表 就業者数(昭和60年度国勢調査)

市町村	総数 (人)	第1次産業		第2次産業		第3次産業		分類不能の産業	
		実数 (人)	構成比 (%)	実数 (人)	構成比 (%)	実数 (人)	構成比 (%)	実数 (人)	構成比 (%)
大月市	15,759	733	4.7	7,126	45.2	7,875	50.0	25	0.1
都留市	15,123	588	3.9	7,335	48.5	7,192	47.6	8	0
富士吉田市	26,552	543	2.1	13,226	49.8	12,747	48.0	36	0.1
河口湖町	8,022	470	5.9	2,442	30.5	5,110	63.6	—	—
西桂町	2,050	110	5.4	1,195	58.3	736	35.9	9	0.4
御坂町	5,810	2,358	40.6	1,203	20.7	2,232	38.4	17	0.3
一宮町	5,549	2,837	51.1	869	15.7	1,841	33.2	2	0
勝沼町	4,997	2,740	54.8	656	13.1	1,584	31.7	17	0.4
大和村	951	179	18.8	376	39.5	396	41.7	—	—
芦川村	482	229	47.5	150	31.1	102	21.2	1	0.2
道志村	1,056	114	10.8	557	52.7	384	36.4	1	0.1
計	86,351	10,901	12.6	35,135	38.1	40,199	49.2	116	0.1

3. 交 通

図幅の中央を東西に国鉄中央線が走っており、この中央線とほぼ平行して、中央自動車道と甲州街道（国道20号線）が走っている。

また、大月から富士吉田に向って私鉄富士急行線が走り、これに沿う形で中央自動車道と国道139号線が走っている。さらに、図幅南西の河口湖町から甲府方面へと抜ける道路として国道137号線がある。

鉄 道 ① 国鉄中央線

② 私鉄富士急行線

高 速 道 <1> 中央自動車道

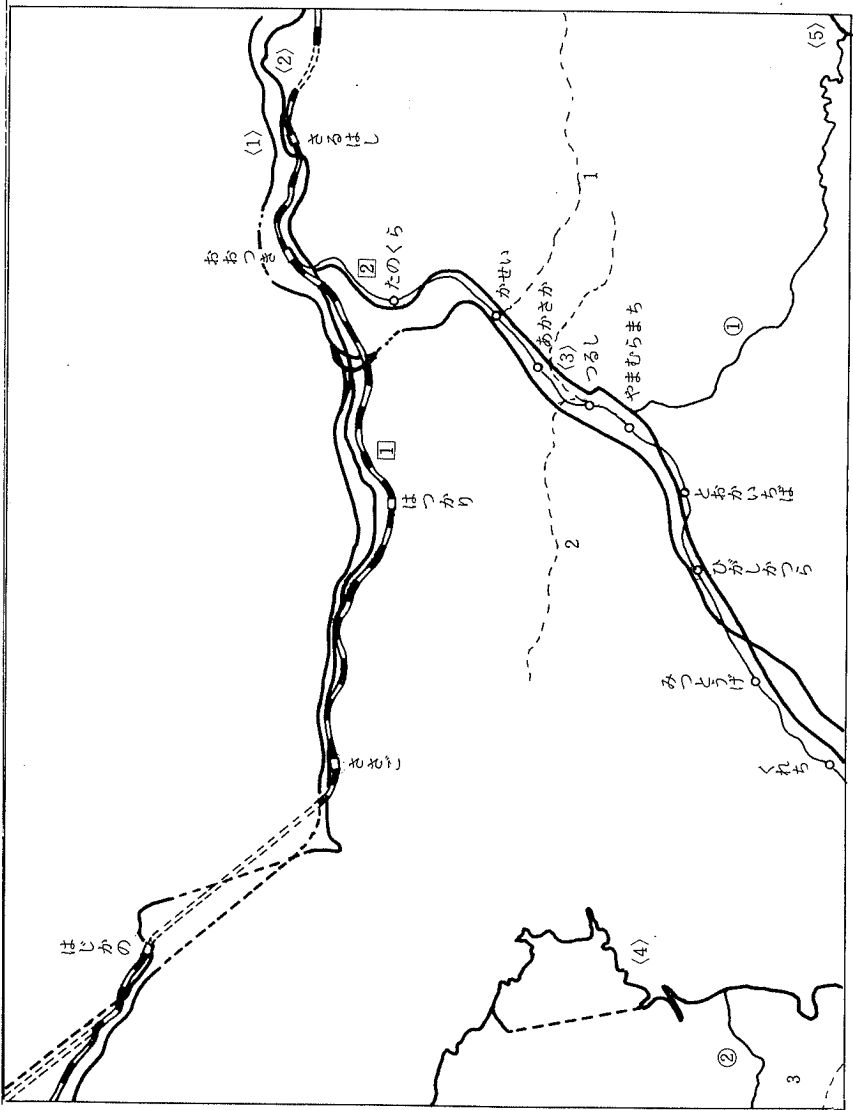
一 般 国 道 <2> 20号線 <3> 139号線

<4> 137号線 <5> 413号線

主要地方道 ①都留・道志線 ②河口湖・上九一色線

一般地方道 1. 四日市・上野原線 2. 高畑・谷村停車場線 3. 鳴沢・河口湖線

第4図 交通網図



IV 主要産業の概要

1. 林業

本図幅東部の大月、都留地域は、比較的温暖に近く、土壌条件も良く、スギ、ヒノキの生育に適しているが、南部は寒冷多雨で土壌条件も悪いため、アカマツ・カラマツが多い。

経営は、所有規模の零細性、人工林である針葉樹林成育の超長期性、外材の輸入による圧迫や価格の低迷などによる林業事情の悪化等の厳しい条件のもとで、生産意欲が低下し、就業者不足、高齢化といった問題に直面している。

このため、森林組合を強化したり、人口林の植樹、育成などをおこなって林業生産基盤の整備、拡充に努めるなどして、林業経営の安定化を目指している。

2. 農業

大月、都留では、昔から桂川沿いの低地で水田を、その他の地域で畑、桑園などを営んでいたが、水田は稲作転換により、樹園地は、養蚕業の低迷による桑園の改廃により、それぞれ減少している。さらに、交通網の発達に伴う首都圏からの労働需要の増加や他産業との所得格差などもあって、農業は停滞している。

図幅西部の勝沼町、一宮町、御坂町は、県内有数の果樹産地で、主にぶどう、桃、すももを生産している。

3. 工業

桂川周辺の大月市から河口湖町にかけては、どこも昔から絹織物や繊維工業などの零細な家内工業が工業の中心をなしていたが、近年は交通網の発達により、電気、機械輸送、精密機械器具工業などが進出しており、繊維工業などは停滞している。

4. 観光

本地域の観光は、図幅南西部の河口湖町周辺が中心である。ここは、富士山の裾野の富士国立公園の一郭をなし、富士山、河口湖という2大自然資源により成り立っている。特に首都圏という大観光市場への近さや、富士五湖玄関口にあるという立地条件、中央自動車道の開設などによって順調な発展をとげている。

また、山中湖に源を発する桂川は、上流は溶岩と溪谷美によって観光客を集め

下流はアユの釣り場として県内の釣人でにぎわっている。

その他、周辺の山々は、登山やハイキングのコースになっている。

第5表 農家戸数及び耕地面積

区分 市町村名	農家戸数				耕地面積 (ha)				畑地率 (%)	林野面積 (ha)	
	専業	兼業	合計	兼業率	田	普通畑	樹園地	牧草地			計
大月市	148	1,872	2,020	92.7	223	227	263	—	713	2.5	24,742
都留市	90	1,901	1,991	95.5	462	103	130	—	695	4.3	13,902
富士吉田市	45	1,626	1,671	97.3	409	91	2	—	502	4.2	10,350
河口湖町	71	855	926	92.3	163	282	5	—	450	7.1	4,198
西桂町	5	346	351	98.6	79	14	1	—	94	6.1	1,222
御坂町	472	970	1,442	67.3	12	7	942	5	966	16.5	3,994
一宮町	576	1,061	1,637	64.8	2	2	945	—	949	31.9	1,322
勝沼町	584	921	1,505	61.2	—	1	902	—	903	24.6	1,897
大和村	28	243	271	89.7	2	1	71	—	74	1.7	4,191
芦川村	39	155	194	79.9	11	63	16	—	90	2.4	3,427
道志村	8	372	380	97.9	74	54	19	—	147	1.9	7,446
計	2,066	10,322	12,388	83.3	1,437	845	3,296	5	5,583	6.0	76,691

資料：山梨県農林水産統計年報（昭和60年版）

第6表 農業粗生産額

単位：100万円

区分 市町村名	農業粗 生産額		耕 種					畜 産					加 工 農産物	
	計	米	麦 穀類	いも類 及ひの 野菜	種			計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏		その他
					実き	果	花							
大月市	900	184	29	240	60	15	183	3	94	72	118	2	—	
都留市	1,095	450	15	308	6	5	90	23	7	97	91	3	—	
富士吉田市	879	430	5	242	129	8	—	3	—	55	0	7	—	
河口湖町	673	115	2	435	25	40	—	0	51	1	4	—	—	
西桂町	95	69	2	22	0	2	—	—	—	—	—	—	—	
御坂町	4,904	5	0	85	4,392	87	2	11	38	218	61	4	1	
一宮町	5,260	3	—	17	4,897	94	—	40	—	101	108	—	—	
勝沼町	4,821	—	—	10	4,714	92	—	3	—	3	—	—	2	
大和村	231	—	—	12	190	13	16	—	—	0	—	—	—	
芦川村	162	5	1	75	—	74	6	—	—	1	—	—	—	
道志村	371	44	7	81	0	13	2	—	—	224	—	—	—	
計	19,391	17,749	61	1,527	14,413	443	299	1,340	80	772	282	16	3	

資料：山梨県農林水産統計年報（昭和60年版）

第7表 工業統計及び商業統計

(単位：人、百万円)

区分 市町村名	事業所数	従業員数	製造品 出荷額	商店数	従業員数	年間 販売額
大月市	208	3,171	2,973,996	795	2,535	3,761,978
都留市	255	4,288	5,383,068	874	2,495	4,430,352
富士吉田市	243	3,688	3,226,552	1,804	5,253	10,795,568
河口湖町	46	(1,464)	(1,565,658)	531	1,717	2,284,331
西桂町	26	301	256,007	83	231	161,998
御坂町	29	710	1,183,953	222	554	657,437
一宮町	20	302	389,631	192	490	541,667
勝沼町	21	574	1,638,403	146	370	410,611
大和村	12	114	121,439	24	55	53,136
芦川村	6	39	19,872	11	21	7,656
道志村	28	314	142,635	36	64	32,073
計	894	14,965	16,901,214	4,718	13,785	23,136,807

資料：昭和57年工業統計調査結果報告（山梨県）

昭和57年商業統計調査結果報告（山梨県）

(注) 「事業所数」・「従業員数」・「製造品出荷額」は4人以上の事業所である。

河口湖町（ ）は、勝山村を含む。

各 論

I 地形分類図

1. 地形概説

調査図幅地域は富士火山の北麓、御坂山地東部および関東山地南縁部が接する地域にあたり、概して山がちで、まとまった平地は桂川沿い、笹子川沿いに小規模に発達するにすぎない。

御坂山地は、「甲府」図幅内では芦川河谷により分けられる二つの山塊から成るが、それらは調査図幅西端の黒岳(1,793m)でいったん合わさった後、御坂峠を経て再び三方向に分岐する。すなわち、南へ三ツ峠山(1,786m)から河口湖の東側を限る尾根、北西へ笹子峠へ下る尾根、そして鶴ヶ鳥屋山(1,374m)を経て大月市(東)に下る尾根である。

笹子川～相模川より北側の山地は甲府盆地の東縁を限る山地にあたる。大菩薩嶺(2,057m)から南では日川上流の谷によって二つの尾根に分かれ、西側の尾根は日川の谷へ、東側の尾根は笹子川ならびに相模川の支流・葛野川の谷へ下る。桂川と図幅南東端にかかる道志川の間山地では、道志川寄りに主稜線が続く。西へ流れて桂川に合流する支流は、道志川に合流するそれらに比べて緩勾配で谷底平野の発達もよい。

調査図幅内には、丹沢・御坂両山地と関東山地を分ける重要な地質境界である藤野木・愛川線がほぼ図幅中央を横断している。藤野木は金川上流部にあり、巨視的にはこの地質構造線は笹子川・相模川河谷にあたっている(詳しくは後に記述する)。

桂川、相模川およびその支流の谷中には河岸段丘の発達が顕著である。河岸段丘を構成する物質には富士火山起源のものが大量に含まれる。この他に図幅内では比較的広い低地が河口湖の湖岸に分布する。

金川、日川などは甲府盆地へ排水され、笛吹川―富士川水系に含まれる。一方桂川、笹子川、道志川は、いずれも相模川水系をなす。この他に御坂山地南側斜面の一部は河口湖に流入する独立した水系である。地形分類図ではこれらの水系の他に、道志川水系、笹子川水系を区分した。

2. 地形区

主として空中写真判読により地形分類を行なった。分類された地形の連続性、地形面の勾配、構成物質、形成に関与した作用などに基づいて、次のような地形地域を設定した。低地については、煩雑さを防ぐために、支谷の小規模な平坦地のすべてを地形地域区分図に表現することはさけた。

I 火山地	a. 富士火山地	1. 熔岩流地 2. 火山麓扇状地
II 山地	a. 御坂山地 b. 丹沢山地 c. 関東山地	1. 三ッ峠・笹子山地 2. 御坂山地 1. 道志・秋山山地 2. 丹沢・大室山山地 1. 大菩薩山地 2. 扇山・百蔵山山地
III 低地・台地	a. 湖岸低地 b. 甲府盆地 c. 河谷低地	1. 河口湖岸低地 1. 金川河谷 2. 日川河谷 1. 桂川河谷低地 2. 笹子川河谷低地 3. 道志川河谷低地

3. 地形詳説

I 火山地

火山地の地形分類には主に二つの作業・情報が含まれる。第1は火山の発達過程や構成物質とは無関係に斜面勾配を分級・表現するものである。分級は15°未満, 15°~30°, 30°~40°, 40°以上の4つである。第2は火山地形の成因的分类で, 火山麓扇状地, 熔岩流堆積地域などが別途に表現される。斜面勾配に

より4区分された火山斜面をピンク色の濃淡で表現する。急勾配斜面ほど濃い色を与えるが、調査図幅内には15°未満の緩勾配斜面のみが分布する。

Ia 富士火山地

調査図幅の南西端付近および桂川の谷の一部を占める (Ia 1)。このうち河口湖南縁を限るのは船津熔岩流、東剣熔岩流の末端部である。河口湖の成立はこれらの熔岩流によっている。湖へ向って緩く傾くが、地表面には熔岩流特有の小起伏がある。

図幅内の桂川最上流部は、富士火山北麓から桂川河谷へ移り変わる地域にあたる。桂川河谷には主として猿橋熔岩流が段丘地形をなして分布し、猿橋付近まで達している。この一連の熔岩流をすべて富士火山に含めると、猿橋までの河谷底の大半は火山地になる。しかしここでは、河谷底の地形および地形的位置を優先させ、熔岩流表面が局地的に急勾配になる上暮地付近で火山地と後述の桂川河谷底地 (IIIc イ) を区分した。

火山麓扇状地 (Ia 2) も富士火山北麓から富士吉田市に広がる緩傾斜火山麓扇状地の一部である。山中湖・秦野図幅内では二段 (二時期) に分かれ、段丘化した上位の火山麓扇状地は道志・秋山山地寄りの大明見周辺に発達が良い。調査図幅内の火山麓扇状地は、吉田市の大半を含むものの連続で、上位の火山麓扇状地と猿橋熔岩流に分布を狭められる付近にあっている。

II 山地

非火山性山地についても山地斜面の勾配に基づいて表現した。傾斜分級は火山と同様に15°未満、15°~30°、30°~40°、40°以上である。これらは図上では茶色の濃 (急) 淡 (緩) により表現される。この分類をベースとして、山頂山稜の平坦面および凸型斜面、顕著な凹型斜面を重ねて示した。さらに都留市周辺の山地に特徴的に発達する、スプーンでえぐり取ったような源頭部まで広い谷地形の谷頭部 (おそらく地すべり性崩落崖) を示した。

山地の地域区分は相対的に大きな河谷およびそれらを結ぶ峠によって行なった。御坂山地 (II a) は日川~笹子峠~笹子川~桂川で囲まれる地域、丹沢山地 (II b) は桂川~相模川以南の地域、関東山地 (III c) は日川~笹子川~相模川以北の地域である。これらの山地地域区分は地質構造と厳密には一致しな

い。関東山地と御坂・丹沢山地を地質的に分ける愛川・藤野木構造線は、金川上流の藤野木から鶴ヶ鳥屋山の北側斜面を通り、初狩付近で笹子川の谷を横切った後、岩殿山の北側、百蔵山の南麓を通る。この線より北側は地質的には関東山地に含められてよい。すなわち藤野木～愛川線より北側、日川河谷～笹子峠～笹子川以南は地質的には関東山地であるが、地形的には区分不可能であるので、御坂山地（II a）とした。

II a 御坂山地

御坂山地は金川河谷～御坂峠によって三ツ峠・笹子山地（II a 1）と御坂山地（II a 2）に分けた。御坂山地は西隣りの甲府図幅において芦川河谷によって分けられた東西方向の主稜線が合わさる地域にあたる。ほぼ山地南斜面には御坂層群上部の高荻累層、小沼累層が、北斜面にはこれらを貫く石英閃緑岩が愛川～藤野木線を介して接する。

三ツ峠・笹子山地（II a 1）は、愛川～藤野木線以北では徳和型花崗閃緑岩および瀬戸川層群上部、以南では御坂層群および上位の富士川層群により構成される。三ツ峠山の山頂周辺には富士川層群上部の桂川累層（礫岩）が広く分布し、一部はロッククライミングの岩場を作っている。これらの御坂層群、富士川層群には北東～南西方向の断層変位が著しい。このうち、初狩付近から富士吉田に至る、三ツ峠山東斜面の断層を境にして山地の高度、斜面勾配ともに変化し、地形に差異を与えている。確実な証拠は得られていないが一部は活断層かもしれない。勾配、起伏ともにやや小さくなる断層東側の山地の東端近くに位置する高川山（975m）は粗粒玄武岩より成り、斜面勾配も再び急になるので、岩質の差が地形に表われているとみなされよう。

II b 丹沢山地

丹沢山地は道志川南東側の丹沢・大室山山地（II b 2）と、桂川～相模川～道志川で囲まれる道志・秋山山地（II b 1）に細分される。丹沢・大室山山地は図幅東南端にわずかにかかるにすぎない。

丹沢山地主部には新第三系を貫く石英閃緑岩が広く露出するが、調査図幅内では図幅南縁付近および都留市・菅野川、朝日川下流部に小範囲に分布するにすぎない。道志・秋山山地は御坂層群から成り、上述の朝日川流域（とくに谷

の北側)の石英閃緑岩を伴う桃の木累層を除けば、ほぼ北へ向って新しい地層が現れる。山地斜面の傾斜や谷の地形など山地地形の場所による変化は認められない。わずかに、都留市周辺、とくに都留文科大学付近の山地には、上流まで開いた特徴的な谷地形が集中的に分布するていどである。

II c 関東山地

笹子川～相模川より北側の山地・関東山地は一部を除いて四万十統最上部の瀬戸川層群およびそれを貫く花崗閃緑岩より成る。御坂層群あるいは富士川層群から成る山地は、初狩から真木、畑倉を経て百蔵山・扇山の山麓を通る線より南側の地域にあたる。これらの地質、岩質の相違は山地地形の大勢に影響を与えることはない。やや詳しくみた時、たとえば滝子山から北へ向う主稜線上に広く発達する山稜平坦面は花崗閃緑岩の性質の影響を受けているかもしれない。

関東山地を南北に流れる葛野川の谷は深く山地を分断しているので、西側を大菩薩山地(II b 1)、東側を百蔵山・扇山山地(II b 2)とした。

III 低地・台地

低地の地形については単位地形による地形分類を重ねて地表面勾配を黒の細線模様で示した。分級は 8° 以下の地域について 3° 、 $1/2^{\circ}$ 、 $1/4^{\circ}$ を境界値とした。ただし $1/4^{\circ}$ の勾配の地域を図上作業で得るには2.5万分の1地形図に2.5mおよび1.25m間隔の補助曲線が必要である。この点において、調査図幅中の低地では $1/4^{\circ}$ の境界値を決めることができなかつたので、 $8^{\circ}\sim 3^{\circ}$ 、 $3^{\circ}\sim 1/2^{\circ}$ 、 $1/2^{\circ}$ 未満に分けた。また、低地はいずれも山間の河谷底と言える小規模なものであるので、上記の傾斜区分は比較的連続性のよい地域について表現した。 $1/2^{\circ}$ 未満の低地は河口湖岸に小範囲に現れるが、図上表現できないていどの広がりである。

山麓や山間の谷底に発達する小扇状地ないし埋積谷・緩斜面状の地形は、主として土石流によって形成されたと推定した。図上では、それらを開析されたもの、現成のものに分けて分類した。

本図幅内の低地・台地は、湖岸低地(III a)、甲府盆地(III b)、河谷低地(III c)に大別される。

Ⅲa 湖岸低地

河口湖北東岸に発達する比較的まとまった低地である。黒岳、御坂山、三ツ峠山からの小河川は山麓に合流扇状地を作っている。しかし湖岸近くでは勾配が緩くなり、空中写真上での色調にも変化が認められることから、デルタ性の沖積平野が発達しているものと考えられる。

Ⅲb 甲府盆地

ここで甲府盆地として区分したのは、甲府盆地から連続する金川河谷（Ⅲb 1）、日川河谷（Ⅲb 2）という意味あいにおいてである。

金川河谷は兩岸山地からの物質供給が著しく、山麓から谷底にかけて厚い粗粒堆積物が認められる。これらの大半は土石流起源と考えられる。多くは開析されているが、新鮮な土石流地形も分布する。もともとかなり急勾配であったため、山地斜面との区別が困難なことがある。

日川河谷では日川開析扇状地（甲府図幅）から続く狭い谷中の段丘地形が主体である。初鹿野周辺にはやや広く発達する。

Ⅲc 河谷底地

河谷底地は桂川河谷低地（Ⅲc 1）、笹子川河谷低地（Ⅲc 2）、道志川河谷低地（Ⅲc 3）に分けられる。このうち、道志川河谷低地は図幅南東端に小範囲にみられるにすぎず、狭い谷底平野、土石流性の堆積地形、河成段丘が認められる。

桂川河谷低地は本流と支流とでは著しく様相を異にする。すなわち、本流では山地斜面と明瞭な境界をなして連続性のよい河成段丘が発達するのに対し、支流、とくに三ツ峠・鶴ヶ鳥屋山地の大幡川、道志・秋山山地の鹿留川、菅野川、朝日川の河谷では谷底平野の発達が顕著である。この支流の良好な谷底平野の発達は本流に沿って富士山から供給される物質の埋積が著しく、それに伴って支流の出口が塞がれるようになったためと思われる。

桂川～相模川本流沿いには明瞭な段丘地形が発達し、現在桂川は狭く深い谷を穿って流れている。段丘面は大きくみて2～3段に分けられる。大月より上流の桂川沿いでは、二段の段丘が分布するが、両者を分ける崖は低く、地形的にはやや横断方向に高度変化のある一連の段丘面とまちがえることもある。た

たとえば、大月市街地の、ほぼ国鉄線路より南側は北側よりやや高い段丘面である。両者の関係は段丘を構成する堆積物により明らかになる。すなわち、上位の段丘には約1.4万年前頃に発生した古富士泥流が厚く堆積している（たとえば、都留市付近では15～20m、大月駅付近でも5～10m）のに対し、下位の段丘には、古富士泥流は分布せず、代って約6,500～7,000年前頃に噴出したと推定される猿橋熔岩が認められる。これらの段丘面区分はほぼ都留市より上流では不可能になることがある。それは、古富士泥流を覆って猿橋熔岩が堆積しているためである。このことは、都留市より上流では、猿橋熔岩が流下した時期には、桂川はほとんど段丘地形を形成していなかったことを示している。一方、より下流では、わずかではあるが、すでに段丘地形が形成され、猿橋熔岩流は当時の低い河原のような地形を選んで流れたことがわかる。

これら特徴的な二層の富士山起源の火山噴出物の下位には厚い過去の河床礫が分布する。それらは、かつて存在した谷を埋めるように発達する。大月市街地周辺では、笹子川合流点より下流の深い谷を作る側壁には基盤岩石が露出するのに対し、やや上流側では礫層が露出する。このことは、かつて桂川は現在よりやや南側に深い谷を形成していた時期があり、その後、この谷を埋め尽くして現在大月市街地をのせる広い河床（段丘面）を発達させたことを示している。このような関係は他にも各所で観察される。

大月～猿橋より下流では、現在の河川に沿って谷底の平坦地の発達がより広くなるものの、段丘地形は明瞭である。とくに、百蔵山の南麓には急勾配の支流性の段丘化した地形が広く発達する。これらの大半は土石流起源と考えられる。

2～3段の段丘地形は支流の葛野川、さらにその支流の奈良井川に沿っても発達がよい。

桂川・相模川を流れ下った1.4万年前の古富士泥流は、「富士相模川泥流」とも呼ばれる。富士山周辺の各所で認められる古富士泥流の一つに個有の名称を与えたものである。この富士相模川泥流は富士山から70kmも下流の相模原でも厚さ1.4mあり、しかもすでに段丘を形成していた崖を越えて堆積した。上流地域ではもちろん厚くなり猿橋では10m前後、桂川の谷では20mに及ぶこと

もある。この泥流は1985年11月13日発生して、50km離れたアルメロを埋没したコロンビアのネバド・テル・ルイス山からの泥流と同様のものである。富士相模川泥流は、雪氷におおわれた富士山の噴火によって発生したと推測させる総量1 km³以上に見積られる大泥流である。

猿橋熔岩は猿橋付近まで達しているが、その厚さは上流の都留付近よりもむしろ大月、猿橋で厚く、かつ広い範囲に分布する。このことは、熔岩流が流下につれて流速を落とし、厚さを増したためであろう。

笹子川河谷低地(IIIc 3)には、これら富士火山起源の泥流、熔岩流の堆積物は分布せず、段丘地形の発達も悪い。むしろ、現在の河床に近い高度の谷底に、平坦地が広がる。真木川に沿っては、比較的連続性のよい急勾配の段丘地形が発達し、その上流部では土石流起源と堆定される支流性の谷埋め～押し出しによる地形が分布する。このような地形は笹子川最上流部でも顕著である。

4. 起伏量

5万分の1地形図「都留」図幅の各辺を20等分して得られるすべてのメッシュについて、最高点と最低点の標高差を求め、これを起伏量とする。それらの値を<50m, 50~100m, 100~200m, 200~400m, >400mの5階級に区分し、起伏量の小さい方からそれぞれ1, 2, 3, 4, 5の数字で表現して起伏量図とした。

起伏量は単位面積あたりの地形の急峻差、平坦さを表現する。御坂山地の中心部、黒岳、三ツ峠山周辺および大菩薩嶺から南へつづく二つの稜線は>400mの大きな起伏のある山地が連続よく分布する。これに対して、道志・秋山山地では>400mの起伏量の範囲は島状に現われるようになり、大半の地域は200~400mの起伏量となる。図幅全体でみると、西半部で400m以上の起伏量の地域が広く東半部は点的になっている。

起伏量が100~200mになるのは、多くの場合、桂川および相模川本流の谷底部にかかるか、その周辺地域に限られている。

一方、50m以下、ないし50~100mの小起伏、すなわち平坦地は、わずかに河口湖周辺と桂川の谷の一部に現われるにすぎない。このことは、何よりも平野が小規模で、各辺20等分のメッシュ内にたいていの場合山地の一部がかかることを意味しているのであって、小起伏の範囲が皆無に近いというわけではない。

(吉村 稔, 平川一臣)

起伏量图

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
A	5	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4	5	4	4	4	5	4	4	5	5
B	4	5	4	4	4	4	4	5	5	4	4	5	4	5	5	4	4	4	4	4
C	4	5	5	4	4	4	4	5	5	4	4	4	4	4	5	4	4	4	4	4
D	5	5	4	4	4	4	4	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4	5	5	4
E	5	4	4	4	5	4	4	4	5	5	5	4	4	4	4	4	3	5	5	5
F	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4
G	5	4	4	4	5	5	5	4	5	5	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3
H	4	4	4	4	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	2	4	4	4	4	4
I	5	4	4	4	4	4	5	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	4	3	4
J	5	5	5	5	4	4	5	5	4	4	4	4	5	4	3	4	4	4	4	4
K	4	5	5	5	5	5	5	4	5	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	5
L	5	4	5	4	5	5	5	5	5	3	3	4	4	3	3	5	4	4	4	4
M	5	5	5	5	4	5	5	4	3	3	4	4	4	3	4	4	5	4	4	4
N	5	4	4	4	5	5	5	5	4	4	3	3	3	3	3	4	3	4	4	4
O	5	5	5	5	4	5	5	5	4	4	4	3	3	3	3	4	3	4	4	4
P	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	2	3	3	3	3	5	5	4	4	5
Q	5	4	4	5	5	5	4	4	4	1	4	4	3	3	4	5	5	5	5	4
R	4	1	3	5	5	5	3	3	3	4	4	4	4	4	5	5	5	4	5	4
S	1	2	4	5	5	4	3	3	5	5	3	4	5	4	3	4	5	5	5	5
T	1	1	4	4	4	4	3	4	5	5	4	4	5	5	4	4	4	4	4	4

1 : <50m 4 : 200~400m
 2 : 50~100m 5 : >400m
 3 : 100~200m

II 表 層 地 質 図

1. 概 説

本図幅は富士山に源流をもつ桂川および桂川の支流笹子川により三つの区域に区分される。笹子川の北側は関東山地の南側斜面に当り、関東山地に源流をもつ河川は南流し、笹子川、桂川に合流する。主要な河川は葛野川、真木川である。

笹子川と桂川に挟まれた山地は、御坂山地の東側連続である。山嶺は東西に連なり、高峰は鶴ヶ鳥屋山（1,374.4m）三ツ峠山（1,786.1m）である。河川は三ツ峠山に源流をもち山地の中央を東流して桂川に合流する大幡川が主要河川である。

桂川の南側は丹沢山地の北側斜面で、河川は丹沢山地に源流をもち北流して桂川に合流する。主要河川は朝日川、戸川、鹿留川である。

地質は笹子川北側地域は主として花崗閃緑岩および先新第三紀層四万十層群よりなり、桂川笹子川間地域は新第三紀鮮新世富士川層群および中新世御坂層群よりなり、桂川南側地域は新第三紀中新世御坂層群より構成される。

その層序は次のとおりである。

時 代		地 層 名	岩 相
第四紀	沖積世	新富士火山噴出物 河床堆積物	玄武岩溶岩流、テフラ層 砂礫層
	洪積世	古富士山噴出物 土石流堆積物	火山泥流堆積物 角礫層
第三紀	鮮新世	富士川層群	礫岩、砂岩、泥岩、複輝石安山岩
	中新世	御坂層群	石英安山岩、砂岩、泥岩
			砂岩、泥岩、玄武岩質凝灰角礫岩
先新第三紀	四万十層群	千枚岩、粘板岩、珪岩、砂岩、輝緑凝灰岩	

2. 未固結堆積物

2-1 沖積堆積物

桂川、笹子川およびこれらに合流する各河川の河床には砂礫の堆積がみられる。未固結堆積物で、厚さは5～20mである。

2-2 扇状地堆積物

桂川と笹子川に合流する各支流河川では各合流点に規模は小さいが扇状地がみられる。堆積物は砂礫で、厚さは10～15mである。

3. 半固結堆積物

3-1 土石流堆積物

洪積世間氷期の海面上昇期に形成された湖水域の堆積物である。半固結の角礫層、砂層よりなり、オボレ谷を形成することが多い。

4. 火山噴出物および火山岩

富士火山噴出物は古富士火山噴出物および新富士火山噴出物に区分できる。

4-1 古富士火山噴出物

古富士火山噴出物は玄武岩質火山泥流で、桂川旧流路に沿って流下しており、図幅外の四方津付近まで追跡される。

4-2 新富士火山噴出物

新富士火山噴出初期のテフラ第一層（T1層）が南側山中湖図幅内に広範囲に露出するが、本図幅はその周辺部にあたり、図幅の南西側に露出する。

溶岩流は新富士火山最初の噴出のL1層溶岩流が桂川に沿って流下し、大月市東方の猿橋まで追跡され、さきに流下した古富士泥流を被覆している。猿橋溶岩流である。

河口南岸ではL2層勝山第三溶岩流の末端がみられ一部は桂川に沿って流下し、またL4層剣尾溶岩流が暮地まで追跡され、さきに流下したL1層を被覆している。

5. 固結岩類

本図幅内では笹子川北側に先新第三紀四万十層群の千枚岩、粘板岩、砂岩、珪岩、輝緑凝灰岩が露出する。花崗閃緑岩および石英閃緑岩の貫入をうけて、深成岩周辺では接触変成作用を蒙り、ホルンフェルスに変成されている。

笹子川南側および桂川南側には新第三紀層富士川層群と御坂層群が露出する。

御坂層群は Da 層石英安山岩および同質凝灰角礫岩層、Ms 層砂岩泥岩互層および玄武岩質凝灰角礫岩層、Ba 層玄武岩質凝灰角礫岩層に区分され、東西の褶曲軸をもった褶曲がみられる。

富士川層群は御坂層群を不整合に被覆し、主として礫岩層よりなり、砂岩泥岩層を伴っている。この礫岩層を貫く複輝石安山岩岩脈および溶岩流がみられ、この複輝石安山岩は大月市高川山、都留市生出川では砕石材として採掘されている。

6. 地すべり

東西に連続する藤の木愛川構造線に平行した断層の活動により、時に構造性地すべりが発生する。岩殿山地すべりは構造性地すべりである。

また笹子川に沿った真木付近では、地層中に多量のモンモリロナイトが含まれ地層に膨潤性があるために地すべりが発生しやすくなっている。

7. 鉱泉

本図幅内では未だ高温の温泉は発見されていないが、泉温15~17℃の鉱泉の湧出は各所でみられ、温泉として利用されている。泉質は石膏泉、硫酸泉、硫黄泉等である。

8. 地震

本図幅内の桂川、秋山川、道志川沿岸地帯は地震多発地帯で時にマグニチュード6に近い被害地震が発生する。最近では昭和51年6月16日(M=5.5)、昭和58年8月8日(M=6.0)の被害地震が発生している。昭和60年4月より昭和61年3月までに発生したM>2以上の地震震央を示せば次図のとおりである。

参 考 文 献

浜野一彦他(1970):山梨県地質誌,山梨県

浜野一彦他(1972):山梨県土地分類調査20万分の1,山梨県

浜野一彦(1974):甲府構造線および富士八ヶ岳構造線,山梨大学教育学部紀要
No.5

浜野一彦他(1982):土地分類基本調査(山中湖奏野),山梨県

浜野一彦他(1984):土地分類基本調査(甲府),山梨県

(浜野一彦)

昭和60年4月から昭和61年3月



Ⅲ 土 壤 図

1. 厚層黒ボク土壌

この土壌は、黒色ないし黒褐色（土色の明度、彩度とも3以下）の腐植に富む厚さ50cm以上の火山灰土層をもつものである。腐植含量は13～20%程度である。

土性はおおむね粘質であるが、ときには壤質になるところもある。来迎寺統は水田で都留市内の朝日川流域平坦地および朝日川と桂川の合流地点から大月市の一部にかけての流域に分布し、全層多腐植層からなる。

赤井統は畑地で都留市内の桂川の支流である鹿留川、菅野川、戸沢川および朝日川流域の台地および山地に分布し、全層多腐植層からなる。栽培作物は野菜類が主体である。

2. 黒ボク土壌

この土壌は、暗褐色ないし黄褐の腐植に富む火山灰土層（黒ボク層）で厚さは25cm以上60cm未満、その下層は腐植の少ない褐色の火山灰土である。

これに属する大川口統は、表層が腐植質火山灰土からなり、その厚さは50cm程度であり、土性は大部分が粘質である。

本図幅内では、都留市東部の大幡、西桂町の下暮地および大月市東部の初狩、笹子地内の台地および山地緩斜面に主として分布し、普通畑として利用され、野菜類の栽培が多い。

また、林地土壌では三ツ峠山、ハマノバ丸から派生した、なだらかな尾根線に分布しており、これに属する統としては河口4統、勝沼4統があり、主として天然広葉樹林および草原状になっている。

3. 多湿黒ボク土壌

この土壌は、暗褐～灰褐と層位によって種々の土色を呈する腐植質火山灰土よりなり、斑紋を有する。土壌統では、腐植層を有するもののほか、淡色多湿黒ボク土も包含される。

これに属する桧木沢統は、腐植層をもたないか、あるいは浅い腐植層をもつ壤

質の土壤で、斑紋を有し、50cm程度より下層に礫が存在する。水稻栽培によるかんがい水の影響を受けて水成的形態特徴（斑紋の存在）を示す。本図幅内では河口湖北部の平坦地に分布し、水田として利用されている。

篠永統は、浅い腐植層をもつ粘質の土壤で斑紋を有し、大月市真木の山間低地に分布し、その面積は僅少である。

4. 淡色黒ボク土壤

この土壤は、腐植層が15cm程度と浅いもの、または腐植含量の少ない火山灰土からなるものであり、大川口統の第1層が薄くなるか、色が淡くなったものである。土性は壤質が主であり、1m以内からは礫の存在は認められない。

これに属する江木統は、腐植層を有しない火山灰土層からなり、壤質の土壤で斑紋を有する。本図幅内では都留市内の桂川およびその支流である菅野川および大幡川の流域平坦地に分布し、水田として利用されている。

5. 粗粒淡色黒ボク土壤

この土壤は、腐植層が15cm以下と浅いもの、または腐植含量の少ない火山灰土からなり、土性は壤質が主であるが一部砂質または砂礫質のものもある。これに属する上厚真統は上層20cm内外が腐植層の壤質で斑紋を有し、60cm内外より下層は、礫に富むか礫層となる。本図幅内では、富士吉田市内の桂川流域に分布し、水田として利用されている。

6. 褐色森林土壤（黄褐系）

この土壤は、黄褐灰で腐植含量の少ないものが多く、土性は壤質が主であるが一部には粘質のものもある。これに属する東谷統は上層15cm内外が腐植層の壤質で全層に半角礫ないし角礫を含む。

この統の本図幅内に占める面積割合は僅少で河口湖の北部の山地急斜面や、斜面下方の崩積部分に分布し、主として野菜類の栽培に利用されている。

7. 褐色森林土壤（赤褐系）

この土壤は、灰褐が主で一部黄褐もあるが全般に腐植含量が少なく、土性は強粘質のものが大部分である。これに属する岳辺田統は腐植含量が少なく全層強粘

質で角礫を含む、この礫の有無により最上統と区分される。両土壤統とも隣接して分布し、特に大月市北部の山間地の山腹、山麓斜面および段丘などに広く分布している。多くは桑園として利用されているが急傾斜地が多く有効土層が浅いため生産性は低い。

8. 黄色土壤

この土壤は腐植含量が少なく下層土の色が黄～黄褐色を呈し、土性は主に強粘質で礫を含まない。水田利用によるかんがい水の影響による斑紋が認められる。これに属する蓼沼統は腐植含量が少なく全層強粘質で全層粘質である江部乙統と区分される。両土壤統とも大月市北部の山間平坦部に分布し、その面積は僅少である。水田として利用されている。

9. 粗粒灰色低地土

この土壤は黄褐ないし灰褐で全般に腐植が少なく、土性は壤質ないし粘質のものがあるが、いずれも斑紋を有し、20cm程度以下は円礫に富む砂礫層となる。これに属する八口統は腐植を欠く壤質で、腐植を含む粘質の杉本統と区分される。両統とも20cm以下は砂礫層となり、金助床層には斑紋が顕著に認められる。

これらの統の本図幅内の分布は都留市内の鹿留川および大月市内の笹子川の沖積低地に分布し、水田として利用されている。

山地及び丘陵地の土壤

1. 乾性褐色森林土壤

褐色森林土のうち、B_A、B_B、B_C型に相当する乾燥型土壤である。

A₀層はF層、H層が主である。A層は黒褐ないし暗褐色で、B層との境は比較的にはっきりしている。土壤中に菌糸をみることがある。

これに属する統としては勝沼1統、御坂1統、大月1統、河口1統、及び都留1統である。これらの各統は尾根線や山腹上部に分布し、主として天然広葉樹林アカマツ人工林、及びカラマツ人工林が生育している。

2. 褐色森林土壤

褐色森林土のうち、B_D(d)、B_D型に相当する適潤型土壤で、もっとも生産性のたかい土塚である。A₀層はほとんどみられないA層は黒褐色で腐植に富んでおり、団粒状構造がよく発達している。層位は厚く、B層との境ははっきりしない。

これに属する統は勝沼 2 統，御坂 2 統，大月 2 統，河口 2 統，都留 2 統，及び道志 2 統である。

これらの各統は山腹中部から山脚部にかけて広く分布しており，主として，ヒノキ，アカマツ，スギ人工林として利用されている。

3. 湿性褐色森林土壌

褐色森林土のうち，B_E，B_F型に相当する湿性型土壌である。

A₀層はなく，A層は黒味が強く腐植に富んでいるが，やや過湿気味である。層位は深く，境ははっきりしない。

これに属する統は勝沼 3 統，大月 3 統，都留 3 統である。これらの各統は沢沿いの水の集まりやすいところに帯状に小面積分布しており，スギ，ヒノキ人工林として利用されている。

(日向 進・馬場勝馬)

IV 傾斜区分図

5万分の1地形図「都留」図幅について、すべての等高線間隔に基づいて地表面の傾斜分類を行なった。分級は 40° 以上、 $40^{\circ}\sim 30^{\circ}$ 、 $30^{\circ}\sim 20^{\circ}$ 、 $20^{\circ}\sim 15^{\circ}\sim 15^{\circ}\sim 8^{\circ}$ 、 $8^{\circ}\sim 3^{\circ}$ 、 3° 以下である。さらに 3° 以下の地域について2万5千分の1地形図により $3^{\circ}\sim \frac{1}{2}^{\circ}$ 、 $\frac{1}{2}^{\circ}\sim \frac{1}{4}^{\circ}$ の範囲を区分することを試みた。しかし、調査図幅内では広い緩傾斜地の発達が貧弱である。したがって緩傾斜地の表示は地形分類との対応において相対的にまとまった範囲に分布する地域に限った。なお、この 3° 以下の範囲についてはオーバーレイシートの傾斜分類図ではなく、地形分類図に表現することとした。

山地斜面は概して $30^{\circ}\sim 40^{\circ}$ の急傾斜地の占める範囲が広い。 40° 以上の極急傾斜地は三ツ峠山周辺から笹子川流域、葛野川流域にやや広く分布するにすぎず、それらも赤石山地のように連続的に広範囲を占めるのではなく、パッチ状に表わされる程度である。とくに道志・秋山山地では極急傾斜斜面は狭い。しかし、このことは逆に傾斜分類境界の 40° よりわずかに緩い山地斜面が広いことを示唆するものである。山地斜面のうち、 $30^{\circ}\sim 20^{\circ}$ 、 $20^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の範囲は、山麓へ徐々に現われ、次第に山地斜面が緩勾配になることを示している。このような変化は道志・秋山山地で著しい。これに対して三ツ峠山～鶴ヶ鳥屋山の東側斜面では 30° 以下の地域がまとまってみられる。ここは顕著な断層の東側の地域に当たっており、地質が影響を与えているものと予想される。この他に目立つ山地内の緩勾配地域は、滝子山の北西側に広がる $20^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の山頂緩斜面である。三ツ峠山の山頂付近から金川源流部にかけても緩勾配斜面が比較的広いが、これらの多くは土石流起源の粗大堆積物から成る堆積性の斜面である。

低地部は、桂川～笹子川～相模川の主谷に沿っては 3° 以下の範囲が連続よく分布する。これらの上流部および支谷では 8° 前後まで勾配が増加する。さらに上流部の $8^{\circ}\sim 15^{\circ}$ の範囲には支流性の土石流地形および山地斜面の両者が含まれる。なお、 3° 以下とした桂川の段丘、熔岩流地の勾配を2.5万分の1地形図によって計測すると、いわゆる猿橋熔岩流表面の急傾斜部が抽出されるので、地形分類図上に表現した。

(吉村 稔, 平川一臣)

V 水系・谷密度

5万分の1地形図「都留」図幅の各辺を40等分して得られるメッシュの区画線を切る水流の和を4メッシュごとに集計したものを谷密度とする。その基礎資料である水系図は、上記地形図幅上の水流ならびに等高線から判読されるすべての谷線を図化したものである。

水系パターン、谷密度とも関東山地、三ツ峠・鶴ヶ島屋山地、道志・秋山山地において差異は認められない。また藤の木～愛川線など地質構造線の影響もほとんど受けていない。わずかに笹子町・原付近から大鹿峠を経て初鹿野・景德院に達するような北西—南東方向の直線的な水系が何本か認められ、関東山地の地質構造の大略に一致している。

水系パターンをより詳しく見ると、たとえば日川上流の日影集落～笹子峠に至る小流域、三ツ峠出～河口湖へ排水する小流域のように、水流の数が減少し、かつやや直線的なものが多くなるような特徴を抽出することができる。

谷密度はほぼ30前後であり、多いところで40を越える。山地内でとくに連続的に谷密度が小さい範囲は表現されていないので、全体として水系の発達がよく、かつ隣り合う水系が主稜線、支稜線を問わず山稜部にまで達していることを示している。しかし、この値は上述のメッシュごとの集計結果に基づくものである。滝子山の北へ続く稜線上、三ツ峠山周辺の稜線付近にみられる平坦面、緩斜面の水系はより小さいメッシュでなければ表現されない。

(吉村 稔, 平川一臣)

VI 土地利用現況

本調査地域の土地利用は、桂川とその支流、国鉄中央線、河口湖、等の周辺の市街地・村落地域と、その周囲に広がる山林地域とに区分される。

市街地・村落地域は、大月市、都留市、富士吉田市および河口湖町を中心とし、工場や学校、役所などの文化施設、行政施設が集中している。また、このような居住可能な低地は、極めて少ないため、宅地の細分化現象が起ってきている。

農耕地域は、市街地・村落地域の周辺に集中しているが、やはり、土地不足のため農地集約的な農業を営んでいるところが多い。

その他の地域は、広葉樹林と針葉樹林の混在地域であり、桂川周辺沿いの山林には私有林が多いこともあり、人工の針葉樹林が多い。また、図幅西部の山林は、県有林が大半であり、広葉樹林の比率が高くなっている。

資 料

コンピューター・マッピングについて

山梨県では、土地分類基本調査成果の活用を図るため、本年より地形、表層地質土壤の3図幅の印刷についてコンピューター・マッピング方式を採用し、土地利用現況図、傾斜区分図についても、印刷業者の協力により、地図情報をコンピューターに入力しております。

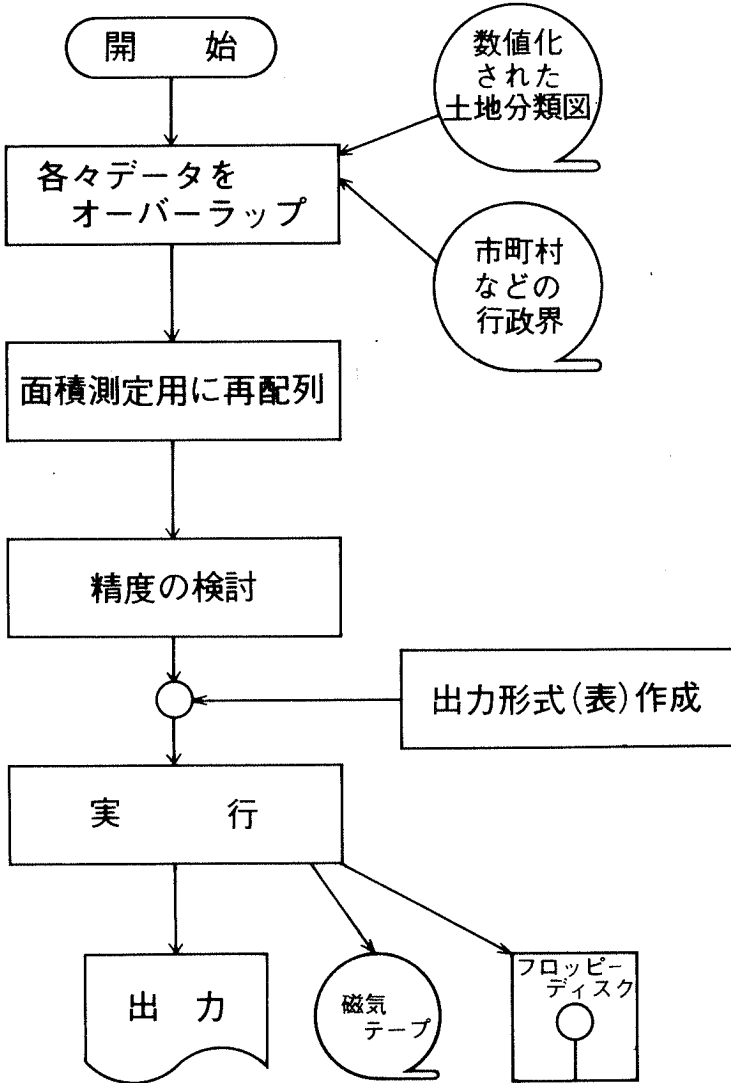
“コンピューター・マッピング方式”とは、「まず、コンピューターが地図情報を読み取り、次に解読したデータを機械が図化し、それを印刷する」という方式です。この方式により、成果の利活用について、重ね合わせや面積の測定が可能になり、また、数値化された成果を土地情報管理事業の基礎資料として活用することも可能になります。

本年度のコンピューター・マッピング方式による印刷の成果として、モデル的に行った面積測定の成果を登載いたしました。

なお、コンピューター・マッピング方式の採用により、この土地分類基本調査の成果がさらに多くの場で活用されることを希望しております。

土地分類基本調査における面積測定について

数値化された地図情報の利活用の1つとして面積測定が上げられます。今回の面積測定は、下記の流れによって作業を実施いたしました。



作成できる面積測定表の例

- ① 1 図葉中での各凡例の面積測定
 〈例 1〉, 〈例 2〉, 〈例 3〉
- ② 1 図葉中での, 市町村を単位とした各凡例の面積測定
 〈例 4〉, 〈例 5〉
- ③ 2 種類の地図を重ね合わせて各凡例ごとに面積測定
 〈例 6〉
- ④ ③を市町村単位で出力
 〈例 7〉

※入力されたデータ（面積測定成果）は、磁気テープ、フロッピーディスク等での保管が可能になり、従来の地図原図に比べて場所を取りません。また、成果の維持管理が容易であり、統一化した精度の図面を常時短時間で印刷することができます。

<例1>

市町村面積測定結果

単位：k.m²

市町村名	面積
大月市	165.29
都留市	124.74
富士吉田市	11.57
河口湖町	29.79
西桂町	15.09
御坂町	17.40
一宮町	2.60
勝沼町	9.63
大和村	38.29
芦川村	0.16
蓮志村	4.84
合計	419.40

<例2-1>

土地利用図面積測定結果

単位：ha

凡例名	面積	
	凡例ごと	小計
田	1126.6	
普通畑	169.0	
果樹園	179.9	
桑園	1269.4	2744.9
針葉樹林 (人工林)	16361.9	
針葉樹林 (天然林)	286.2	
広葉樹林 (人工林)	18.6	
広葉樹林 (天然林)	17015.0	
竹林	4.5	
未立木地	205.5	
原野	2013.3	35905.0
運動施設	124.1	
裸地・荒地	216.1	
市街地・村落	1754.5	
公共施設・外	72.2	
道路	679.8	2846.7
河川・湖	443.4	443.4
合計		41940.0

<例2-2>
土地利用図面積測定結果

単位：ha

凡例名	面積	
	凡例ごと	小計
国立公園（特別地域）	2733.8	3511.7
国立公園（普通地域）	777.9	
自然保存地区	296.3	296.3
合計		3808.0

<例2-3>
土地利用図面積測定結果

単位：ha

凡例名	面積	
	凡例ごと	小計
県有林	13509.0	13863.2
市町村有林	240.9	
社寺有林	113.3	13863.2
合計		13863.2

<例3>
地形分類図面積測定結果

単位：ha

凡例名	面積	
	凡例ごと	小計
火山斜面<15度	*1 181.9	181.9
火山麓扇状地	44.0	
熔岩流地	137.9	181.9
山地斜面>40度	902.3	20113.8
30度以上40度未満	20113.8	
15度以上30度未満	13464.3	349.2
15度未満	349.2	
山頂及び山麓平坦面、顕著な凸型斜面	*1 101.7	69.2
顕著な凹型斜面	*1 69.2	
新開土石流地形	881.7	37051.8
古開土石流扇状地及び堆積面	1340.5	
低地3度~8度	*1 138.0	2808.4
低地0.5度~3度	*1 2808.4	
砂礫台地	1982.1	33.9
記憶平野、後背低地	33.9	
扇状地	139.7	1244.6
谷底平野	1244.6	
堤河床	120.4	3520.7
人工改変地	58.5	681.3
道路	681.3	
河川	445.8	1185.6
合計		41940.0

*1 重複している凡例の部分です。

<例4-1>
土地利用現況図面積測定結果 (市町村別)

単位: ha

凡例名	大月市	都留市	富士吉田市	河口湖町	西桂町
田	249.6	590.5	77.9	69.4	130.0
普通畑	40.7	23.5	16.4	60.6	17.2
果樹園	3.0	57.3	0.0	5.2	0.0
桑園	694.7	540.4	0.0	0.0	0.0
針葉樹林 (人工林)	5951.7	5227.2	705.8	1431.8	837.9
針葉樹林 (天然林)	54.5	74.4	1.5	66.1	59.9
広葉樹林 (人工林)	3.0	7.4	0.0	0.0	0.0
広葉樹林 (天然林)	7641.5	4072.2	218.4	575.4	294.5
竹林	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
未立木地	0.0	89.8	0.0	35.3	7.0
原野	775.3	632.5	19.9	140.2	52.3
運動施設	0.4	123.7	0.0	0.0	0.0
裸地・荒地	138.2	36.4	0.0	28.3	4.6
市街地・村落	628.4	720.2	97.1	166.7	77.9
公共施設・外	24.6	35.8	0.0	4.7	3.4
道路	263.0	198.0	19.8	66.1	24.3
河川・湖	59.0	44.7	0.2	329.2	0.0
合計	16529.0	12474.0	1157.0	2979.0	1509.0

<例4-2> 土地利用現況図面課測定結果 (市町村別)

単位: ha

凡例名	御坂町	一宮町	勝沼町	大和村	芦川村
田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
青蓮畑	10.6	0.0	0.0	0.0	0.0
果樹園	7.7	0.0	10.7	96.0	0.0
桑園	0.0	0.0	2.1	17.4	0.0
針葉樹林 (人工林)	674.6	81.6	334.3	895.6	4.9
針葉樹林 (天然林)	14.2	0.0	9.0	0.8	0.0
広葉樹林 (人工林)	0.0	0.0	6.8	0.0	0.0
広葉樹林 (天然林)	851.7	159.3	461.4	2545.0	11.1
竹林	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
未立木地	35.7	19.1	0.0	18.6	0.0
原野	108.2	0.0	127.7	125.9	0.0
運動施設	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
雑地・荒地	0.0	0.0	0.0	8.6	0.0
市街地・村落	15.1	0.0	0.0	45.7	0.0
公共施設・外	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0
道路	22.2	0.0	11.0	59.8	0.0
河川・湖	0.0	0.0	0.0	8.8	0.0
合計	1740.0	260.0	963.0	3829.0	16.0

<例 4-3> 土地利用現況圖面積測定結果 (市町村別)

單位: ha

凡例名	連志村	合計
田	9.2	1126.6
普通畑	0.0	169.0
果樹園	0.0	179.9
桑園	14.8	1269.4
針葉樹林 (人工林)	216.5	16361.9
針葉樹林 (天然林)	5.8	286.2
広葉樹林 (人工林)	1.4	18.6
広葉樹林 (天然林)	184.5	17015.0
竹林	0.0	4.5
未立木地	0.0	205.5
原野	31.3	2013.3
運動施設	0.0	124.1
裸地・荒地	0.0	216.1
市街地・村落	3.4	1754.5
公共施設・外	0.0	72.2
道路	15.6	679.8
河川・湖	1.5	443.4
合計	484.0	41940.0

< 附5-11 >
地形分類圖面積測定結果 (市町村別)

單位：ha

凡例名	大月市	都留市	富士吉田市	河口湖町	西桂町
熔岩流地	0.0	0.0	9.1	128.8	0.0
火山麓扇狀地	0.0	0.0	44.0	0.0	0.0
山地斜面 > 40度	536.0	138.7	38.9	8.4	82.6
30度以上40度未満	8586.4	4304.1	514.4	1033.9	551.9
15度以上30度未満	4787.1	5217.2	378.7	1149.8	521.6
15度未満	255.0	60.7	4.2	0.0	5.6
新期土石流地形	211.5	404.8	5.6	68.8	93.5
古期土石流扇狀地 及び堆積面	695.5	409.1	0.0	10.2	15.8
段礫台地	664.9	915.9	86.0	0.0	200.2
氾濫平野、後背低地	0.0	0.0	0.0	33.9	0.0
扇狀地	0.0	0.0	0.0	139.7	0.0
谷底平野	413.1	730.9	58.2	2.7	14.5
環河床	55.8	0.0	0.0	0.0	0.0
人工改裝地	0.0	58.5	0.0	0.0	0.0
道路	261.5	191.1	17.9	72.0	23.3
河川・湖	62.2	43.0	0.0	330.8	0.0
合計	16529.0	12474.0	1157.0	2979.0	1509.0

＜例5-2＞
地形分類図面積測定結果（市町村別）

単位：ha

凡 例 名	御 坂 町	一 宮 町	勝 沼 町	大 和 村	芦 川 村
熔岩流地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
火山瀋積状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	0.0	0.0	8.9	87.9	0.0
30度以上40度未満	1124.7	176.3	770.6	2765.2	9.3
15度以上30度未満	318.9	83.7	127.8	716.4	6.7
15度未満	9.7	0.0	6.3	7.7	0.0
新期土石流地形	68.0	0.0	14.9	12.5	0.0
古期土石流扇状地 及び堆積面	163.0	0.0	17.8	14.2	0.0
砂礫台地	0.0	0.0	8.1	103.6	0.0
氾濫平野，後背低地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
谷底平野	5.0	0.0	2.6	7.0	0.0
環河床	23.1	0.0	0.6	40.9	0.0
人工改変地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
道路	27.6	0.0	5.4	65.6	0.0
河川・湖	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0
合 計	1740.0	260.0	963.0	3829.0	16.0

< 例 5-3 >
地形分類図面積測定結果
(市町村別)

単位: ha

凡 例 名	道 志 村	合 計
熔岩流地	0. 0	137. 9
火山崩落状地	0. 0	44. 0
山地斜面 > 40 度	0. 9	902. 3
30 度以上 40 度未満	277. 0	20113. 8
15 度以上 30 度未満	156. 4	13464. 3
15 度未満	0. 0	349. 2
新期土石流地形	2. 1	881. 7
古期土石流崩落状地 及び堆積面	14. 9	1340. 5
砂礫台地	3. 4	1982. 1
氾濫平野, 後背低地	0. 0	33. 9
扇状地	0. 0	139. 7
谷底平野	10. 6	1244. 6
環河床	0. 0	120. 4
人工改変地	0. 0	58. 5
道路	16. 9	681. 3
河川・湖	1. 8	445. 8
合 計	484. 0	41940. 0

<例6-1> 地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果

単位：ha

凡例名	水田	普通畑	果樹園	桑園	針葉樹 (人工林)
熔岩流地	0.1	21.5	0.0	0.0	1.2
火山噴出状地	9.4	0.0	0.0	0.0	1.1
山地斜面>40度	0.0	0.0	0.0	0.3	182.6
30度以上40度未満	23.7	11.4	8.3	95.7	7571.0
15度以上30度未満	57.6	44.3	43.0	341.1	7345.7
15度未満	1.4	3.2	3.5	27.4	168.1
新期土石流地形	50.2	25.4	7.3	146.8	291.4
古期土石流扇状地 及び堆積面	53.6	16.4	9.2	311.1	500.7
砂礫台地	514.3	14.8	79.9	191.5	82.8
氾濫平野、後背低地	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	53.8	22.1	3.8	0.0	12.3
谷底平野	303.2	7.2	4.2	125.6	134.8
扇河床	4.3	0.0	15.9	3.5	13.8
人工改築地	0.0	0.0	0.0	0.3	0.4
道路	33.6	1.9	4.5	22.2	50.0
河川・湖	10.7	0.8	0.3	3.9	6.0
合計	1126.6	169.0	179.9	1269.4	16361.9

<例6-2>
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果

単位：ha

凡 例 名	針 葉 樹 (天然林)	広 葉 樹 (人工林)	広 葉 樹 (天然林)	竹 林	未 立 木 地
母岩流地	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0
火山麓扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	43.4	0.0	614.9	0.0	6.6
30度以上40度未満	175.7	7.8	10835.2	2.4	177.8
15度以上30度未満	64.7	3.9	4613.3	2.1	18.5
15度未満	0.0	0.0	83.9	0.0	0.0
新開土石流地形	0.6	4.5	143.7	0.0	0.0
古開土石流扇状地 及び堆積面	0.1	0.6	263.8	0.0	2.4
砂礫台地	0.0	0.0	173.3	0.0	0.0
氾濫平野、後背低地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
農耕地	0.9	0.0	2.4	0.0	0.0
谷底平野	0.6	1.1	160.3	0.0	0.0
堰河床	0.0	0.0	37.0	0.0	0.0
人工改変地	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
運路	0.0	0.7	64.9	0.0	0.2
河川・湖	0.2	0.0	18.4	0.0	0.0
合 計	286.2	18.6	17015.0	4.5	205.5

<例 6-3>
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果

単位：ha

凡 例 名	原 野	運 動 施 設	裸 地, 荒 地	市 街 地, 村 落
熔岩流地	6.6	0.0	0.0	95.2
火山溶岩状地	0.0	0.0	0.0	31.6
山地斜面 > 40度	53.0	0.0	1.5	0.0
30度以上40度未満	1129.5	0.8	30.4	20.5
15度以上30度未満	637.5	51.7	15.5	168.9
15度未満	4.6	20.3	9.9	19.8
新開土石流地形	28.9	1.8	18.5	131.4
古開土石流溶岩状地 及び堆積面	27.4	0.0	29.4	93.9
砂礫台地	9.2	0.0	23.9	766.9
氾濫平野, 後背低地	4.8	0.0	17.3	0.8
扇状地	2.6	0.0	4.9	30.5
谷底平野	83.7	0.0	36.0	282.5
扇河床	9.1	0.0	12.4	11.9
人工改変地	0.0	47.8	0.0	0.7
道路	11.3	1.5	9.5	77.4
河川・湖	5.1	0.2	6.9	22.5
合 計	2013.3	124.1	216.1	1754.5

< 附 6 - 4 >
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果

単位：ha

凡 例 名	公共施設, 外	道 路	河川, 湖	合 計
熔岩流地	2.4	4.0	3.9	137.9
火山瀋積状地	0.0	1.9	0.0	44.0
山地斜面>40度	0.0	0.0	0.0	902.3
30度以上40度未満	0.0	21.6	2.0	20113.8
15度以上30度未満	1.1	51.2	4.2	13464.3
15度未満	1.5	4.5	1.1	349.2
新期土石流地形	8.5	22.6	0.1	881.7
古期土石流瀝状地 及び堆積面	7.4	23.0	1.5	1340.5
砂礫台地	31.1	78.7	15.7	1982.1
記述平野, 後背低地	0.0	0.2	0.1	33.9
扇状地	2.3	4.1	0.0	139.7
谷底平野	7.5	61.3	36.6	1244.6
環河床	0.2	3.5	8.8	120.4
人工改変地	8.4	0.0	0.0	58.5
道路	1.1	400.3	2.2	681.3
河川・湖	0.7	2.9	367.2	445.8
合 計	72.2	679.8	443.4	41940.0

<例7-1-1>
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果 (市町村別)

市町村名： 大月市

単位： ha

凡 例 名	水 田	普通畑	果 樹 園	桑 園	針 葉 樹 (人工林)
熔岩流地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
火山麓扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	0.0	0.0	0.0	0.3	104.9
30度以上40度未満	16.5	9.5	0.0	68.5	3099.2
15度以上30度未満	16.1	12.2	3.0	197.2	2267.2
15度未満	1.3	1.5	0.0	25.3	126.2
新期土石流地形	6.5	2.4	0.0	25.9	55.7
古期土石流扇状地 及び堆積面	30.9	4.3	0.0	214.4	193.1
砂礫台地	85.8	4.6	0.0	102.7	44.2
氾濫平野、後背低地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
谷底平野	75.0	5.2	0.0	45.1	32.1
環河床	4.3	0.0	0.0	3.1	9.1
人工改変地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
道路	7.8	0.6	0.0	10.6	18.9
河川・湖	5.4	0.4	0.0	1.6	1.1
合 計	249.6	40.7	3.0	694.7	5951.7

<注> 国土地理院発行 5万分の1 地形図(都留)図幅は 11の行政区域にわかれており 本年度は地形分類図と土地利用現況図の面積測定(市町村別)を成果として 大月市のみを 登載致します。

< 例 7-2 >
 地形分類と土地利用現況図の面積測定結果 (市町村別)

市町村名: 大月市

単位: ha

凡 例 名	針 葉 樹 (天然林)	広 葉 樹 (人工林)	広 葉 樹 (天然林)	竹 林	未 立 木 地
埴谷流地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
火山麓置状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	13.6	0.0	377.2	0.0	0.0
30度以上40度未満	33.0	0.6	4799.1	0.0	0.0
15度以上30度未満	7.0	0.0	2025.4	1.4	0.0
15度未満	0.0	0.0	65.4	0.0	0.0
新期土石流地形	0.0	1.6	31.2	0.0	0.0
古期土石流扇状地 及び埋積面	0.1	0.0	139.0	0.0	0.0
砂礫台地	0.0	0.0	80.2	0.0	0.0
肥沃平野、落葉低地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
谷底平野	0.6	0.8	78.0	0.0	0.0
珣河床	0.0	0.0	6.9	0.0	0.0
人工改変地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
道路	0.0	0.0	29.7	0.0	0.0
河川・湖	0.2	0.0	9.4	0.0	0.0
合 計	54.5	3.0	7641.5	1.4	0.0

<例7-1-3>
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果（市町村別）

市町村名： 大月市

単位：ha

凡 例 名	原 野	運 動 施 設	雑 地、 荒 地	市 街 地、 村 落
熔岩流地	0.0	0.0	0.0	0.0
火山礫扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	39.7	0.0	0.3	0.0
30度以上40度未満	520.7	0.0	11.5	14.0
15度以上30度未満	179.1	0.4	2.5	50.5
15度未満	1.2	0.0	9.9	17.5
新期土石流地形	4.9	0.0	10.7	61.1
古期土石流扇状地 及び堆積面	3.8	0.0	29.4	61.9
砂礫台地	1.1	0.0	22.5	278.2
氾濫平野、後背低地	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0
谷底平野	18.0	0.0	26.7	90.0
環河床	3.1	0.0	12.4	9.5
人工改変地	0.0	0.0	0.0	0.0
道路	2.4	0.0	6.8	32.6
河川・湖	1.3	0.0	5.5	13.1
合 計	775.3	0.4	138.2	628.4

<例7-4>
地形分類図と土地利用現況図の面積測定結果 (市町村別)

市町村名: 大月市

単位: ha

凡 例 名	公共施設, 外	道 路	河川, 湖	合 計
燐岩澆地	0.0	0.0	0.0	0.0
火山礫層状地	0.0	0.0	0.0	0.0
山地斜面>40度	0.0	0.0	0.0	536.0
30度以上40度未満	0.0	13.4	0.4	8586.4
15度以上30度未満	0.0	22.4	2.7	4787.1
15度未満	1.5	4.1	1.1	255.0
新開土石流地形	1.9	9.6	0.0	211.5
古開土石流層状地 及び堆積面	7.2	10.5	0.9	695.5
砂礫台地	9.4	29.6	6.6	664.9
記述平野, 後背低地	0.0	0.0	0.0	0.0
扇状地	0.0	0.0	0.0	0.0
谷底平野	3.2	20.5	17.9	413.1
填河床	0.0	1.3	6.1	55.8
人工改変地	0.0	0.0	0.0	0.0
道路	0.8	150.6	0.7	261.5
河川・湖	0.6	1.0	22.6	62.2
合 計	24.6	263.0	59.0	16529.0

1987年3月 印刷発行

土地分類基本調査

都 留

編集発行 山梨県農務部農村整備課
山梨県甲府市丸の内1-6-1

印刷 内外地図株式会社
東京都千代田区神田小川町3-22